

# 大竹構成員コメント資料

## 1. 全体について

戦略目標は、「地域資源」としての農林水産物が高機能高付加価値を持つことによって、農林水産業に活力を持たせること、国際競争力を持たせること。

その為の重点施策「医学(異分野)との連携による高機能・高付加価値農林水産物の開発であり、その為の連携施策「異分野融合による高度栽培システムの開発」であると考えます。

この目的に沿って全体戦略が構成されるように期待します。3省の内容に連携性が見られていないのは残念です。

まず、国内外市場・食品メーカーで価値を評価される農林水産物は何かを特定すべきだと考えます。その上で、大まかに考えると、流通(保蔵、物流)技術、品質保証技術、生産技術、育種選抜、が必要。連携施策は、にあたると考えるが、も工学的技術開発が必要であり、連携が必要であると考えます。

## 2. 個別課題

### (1) 文部科学省

葉菜、果菜の質的改善を課題に挙げていますが、そのターゲットとなる作物を、市場価値の高いもの、国際競争力を持つものに焦点を当てて、開発をして頂くことを期待します。

### (2) 農林水産省

- ・課題設定が、「異分野融合」にのみ焦点を当て、上記戦略に適合していないと思います。課題の再考が必要です。
- ・農林水産省は、この協議会の要であり、他府省の研究開発を統合していく軸を設定すべきだと考えます。
- ・それを行わないので、3省の出されている技術開発課題に一貫性がみられていないと思われます。

個別の疑問として、

- ・「日本食の評価」は、「高度栽培システムの開発」のゴールのどこに位置するのか？
- ・「革新的ウイルス対策技術」は、現在、ウイルスによって、どの程度、農産物の生産性を落としているのか？喫緊の課題なのか？
- ・「情報インフラの構築」は、「高度栽培システムの開発」と、どのように繋がっているのか？戦略目標以外の課題も含む総括的課題になっていないか。
- ・「高機能性素材の開発」は、どのような産業を生み出すのか？具体的に何に貢献するのか？
- ・上記4課題以外に優先順位の高い課題があるかどうか、検討されたのか。

### (3) 経済産業省

- ・ファインバブルという技術に焦点を当てていますが、その他の工学技術の適用による生産技術開発も期待します。
- ・ファインバブルの目的は、農産物の最大収量の打破、殺菌洗浄技術。最大収量と殺菌洗浄の数値的裏づけを早く取ることが必要だと考えます。また、費用対効果の算出がされることを期待します。

以上